

週報

こひつじ

第40巻 16号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

向きを変えて、出発せよ

その三 地方における地道な伝道

一時は、留学を夢見たり、都会の伝道に憧れたりしたが、結局、私に与えられたのは、地方における地道な伝道だった。

しかし今では、最初いやだと思っていた、あの頃の平凡な日々が、寶石のような輝きをもって私には思い出されるのだ。

五、六人の中高生たちが、毎朝登校前にやって来た。彼らと聖書を読み、祈るのが私の日課となった。

夕方は、私の生活手段でもあった英語塾で忙しくなったが、昼間は時間がある。まだ二、三歳だった長男を自転車に乗せて、よく散

歩にでかけた。テレビや新聞、話もなく、もちろん車もない。ときどき汽車に乗って、阿蘇のふもとの立野までゆき、山を眺め、また次の汽車で帰ってくる。それが家族の安上がりの小旅行だった。貧しくても、平和な日々だった。単調な生活の繰り返しではあったが、二〇歳の後半から三〇歳の後半までの一〇年間ほど真剣に本を読んだ時期はない。

県立図書館にはよく通った。私の読みたい本の多くは閲覧室ではなく書庫にあったので、図書館の職員をずいぶん煩わせた。

とうとう、ある日、

「職員以外は入れてはいけないのだが、あなたならいいよ。好きな本を取ってらっしゃい」

と書庫に案内してくれた。私の求める本を、毎回、探すのが面倒だったのだろう。

図書館通いをしながら、内村鑑三や矢内原忠雄、藤井武、カーライルなどの本をよく読んだ。

考えてみれば、地方にいなながら、過去に存在したそれらの第一級の教師たちの講義を、いつのまにか本を通して聞いていたのだと思う。

小さな町に残り、狭いところに閉じ込められたと思って最初は悔やんでいたが、その必要はまったくなかった。神は、想像もしなかった広い世界に読書を通して私を導き入れてくださったのだから。

やがて高校生たちが進路を決定する時期が来た。このまま彼らは分散してゆくのだろうか。私ほもつたいたいと思つて、彼らに言った。

「戦前には救世軍がこの町で伝道し、戦後は、数人の宣教師がカナダやアメリカから来て伝道を試

みましたが、教会はできませんでしたが、どうでしょう。学生ばかりのわれわれの今の集まりには何の社会的力もないけれど、いつか社会に少しでも健全な影響を与えるような共同体を、みんなの手で建設してみませんか」と。

彼らはやってみようと言ってくれた。しかしそれが何を意味するかと言えば、彼らが、この町に残るということであり、大きな犠牲を彼らに求めるものだった。

それにもかかわらず彼らは進んで卒業後の進路を近くに求め、大事も職場も通えるところを選んでくれたのである。したがって教師や看護師、公務員になる者が多かった。彼らのような努力と犠牲がなかったら、こんにち大津に教会が存在することはなかっただろう。

こうして教会は少しずつ成長し、やがて会堂を建設することになった。一九八六年、宣教師から働きを引き継いで一四年後のことである。

その献堂式に、大津町の町長が

来て、こんな祝辞を述べてくれた。

「以前は、日本人の心には、神を尊び、畏れるという気持ちがあった。最近はその心をもつた人が少ない。ところがこの教会では、毎日曜日に祈りと賛美と感謝がさざげられている。尊いことです。こうしてクリスチャンの方

がたは、世の中をきよめるために労しておられるのであって、そのことではお礼を申し上げたい。道路がきれいになり、公園ができ、ホールができて、そういう外側の形だけでは、みせかけの繁栄です。どうかそういう点で、クリスチャンの方がたには、今後ともご尽力いただきたい」

以上の言葉を聞いたとき、社会が自分たちに求めているものが何であるかを彼らは知っただろう。そしてそのために少しでも貢献できたことを喜んでいない。

（続）

今日の礼拝

第一礼拝は午前10時から、第二礼拝は午前11時から。

○教会学校は午前10時から。○説教は米村牧師。

先週の礼拝と出席

○司会は合志文利さん、奏楽は吉岡裕美さん。説教は岩崎宏志さん。

○出席者は第一礼拝が五三名、第二が三一名、合計八四名（男二五、女五九）。それに子どもが八名、合わせて九二名でした。

CSピクニック

四月二一日（日）教会学校は、ファミリーピクニックを行ないました。野外の公園を予定していましたが、あいにくの雨で、公民館の多目的ホールに変更になりました。

参加者は左記の通り。

○子ども三浦大青（たいせい）、三浦穂乃果（ほのか）、新井愛香（まなか）、岡本零月（しずく）、石山心一（しんいち）、松本涼太郎（りょうたろう）、松本琴心（ことみ）。

○保護者三浦桂、三浦浩、新井琴子、岡本はるな、石山紗織、松本剛臣、松本潤子。

○スタッフ岩崎まるみ、松岡千波、石山美和、山村みゆき、林田はるか、林田兼、江藤洋子。以上、二一名（子ども七名、大人一四名）

牧師身辺

KB I（関西聖書学院）での奉仕を終え、四月二一日に帰ってくると、学院舎監の富浦先生から、こんな便りをいただきました。

ぶじに熊本にお着きになったでしょうか。さぞお疲れになったことかと思えます。

KB Iでの三日間のご奉仕、ほんとうにありがとうございました。

「出発の人生」に始まり、「主

に導かれる人生」「神のことに生きる人生」「愛について」「傷つけない心について」「祝宴の人生」へと講義は続き、どれも心に響き、私たちの心を捉えてくれました。学生たちにとってもタイムリーな教えでした。

そのあとの八尾福音教会での礼拝の奉仕を含めると、背後にどれほどの準備と祈りがあつたことかと想像します。ほんとうにありがとうございました。

学院では、新川広未さんという方にもお会いしました。

「私は、米村先生が生涯をかけて主を伝えてくださった実です」といきなり言われるので、驚きましたが大津教会出身の大加茂（旧姓小堀）君代さんと夫の巧さんを通して神戸で信仰に導かれ、

今では、娘夫婦がKB Iに在学中で、将来は宣教師となることを希望しているとのこと、今回のセミナーの講師がぼくだと知って、自分も聴講するために来たのだと話してくれました。